がんばろう！ものづくりの力を応援します！

宮城県の産業人材育成・確保の取組

みやぎクラフトマン21

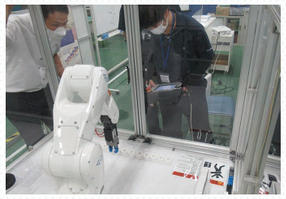
産業用ロボットの関係法令や操作方法等を学ぶ

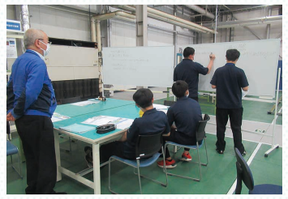
8月9日、伊具高等学校総合学科機械系列の3年生10人が、産業用ロボットの安全作業に関する法令や操作等を学ぶ「産業用ロボットの特別教育」を受講した。

宮城県では、ものづくり産業を担う人材育成を図るため、工業系高校の技術・技能向上を目的として熟練技能者が実践指導等を行う「みやぎクラフトマン21」事業を実施しており、その一環として行われたもの。

会場は、パナソニック仙台工場内にあるエイジェックグループ能力開発センター仙台校。参加者は、産業用ロボットに関する法令について講義を受けた後、ティーチング（教示）によってロボットに動作を記憶させ、操作する実習や、施設内を巡回して危険箇所を発見するリスクアセスメント研修を受講した。研修を担当した講師からは「1カ所見つけるだけでもいい方なのに、生徒からは複数の危険箇所の指摘があり、感心した」と評価された。伊具高等学校では、同事業で、学年ごとに安全教育・危険予知トレーニングも受講している。

10月22日には、同会場でロボットアイデア甲子園東北大会が開催される。伊具高等学校を含め、25校460人（リモート参加含む）が東北各県から参加予定。産業用ロボットを現場に生かす、独創的で実現可能なアイデアが期待される。


操作リモコンを使いロボットに動作を記憶させる


施設内を巡回して発見した危険箇所を発表する

みやぎdeインターンシップ事業

県内ものづくり企業で就業体験

宮城県では「みやぎdeインターンシップ事業」として首都圏等に在住する学生や県内学生向けに、県内ものづくり企業（製造業や情報通信産業、食料品製造業）でのインターンシップを実施している。ポータルサイト【MINT】では、地域・業種・テーマ等からインターンシップ情報が検索でき、現在86社が登録中。企業によっては、技術職のほか事務職や営業職など、さまざまな職種の就業体験を提供する。

例えば、情報通信産業のインターンシップを行っているタスキー株式会社では、同社のスタッフが、長年の夢だった飲食店を開業した起業家になりきり、その飲食店の開業から雇用、宣伝等に関する課題について、参加学生と一緒に考え、解決していくプログラムを実施。幅広い分野でのサポート体験が好評だった。

これまでに「みやぎ de インターンシップ事業」に参加した学生からは、「業界の可能性や地方での働きがいについて学ぶことができ、参加した企業に興味を持った」「自分の専攻とは異なる業種だったが、事業内容に強い関心を抱いた。就業体験を通じて働きやすそうな印象を受けたので、採用選考を受けてみたい」などの感想が寄せられている。

ポータルサイト【MINT】
https://www.mint.miyagi.jp/

インターンシップに参加する学生（タスキー株式会社）

ものづくり企業見学会

高校生が地元ものづくり企業への理解を深める

宮城県では、県内の優れた製造業への理解を深め、ものづくりを志向する人材の確保に資することを目的として、高校生を対象とした「ものづくり企業見学会」を実施している。6月23日、石巻工業高等学校機械科3年生36人が石巻市のセイホク株式会社と株式会社山形メイコー石巻工場を見学した。

セイホク株式会社では、苗木の生産から合板・パーティクルボード製造までを手掛ける工場を、株式会社山形メイコー石巻工場では、最先端のプリント基板製造の工程を見学。参加した生徒からは「前から製造業に就きたいと思っていたが、より関心が深まった」「とてもきれいで、働きやすそうな職場」などの感想が寄せられた。

また、同日「地元企業経営者講演会」（石巻地域産業人材育成プラットフォーム主催）も開催。海外まき網漁業船に搭載する小型軽合金船（アルミ船）製作で国内シェア8割を占める株式会社聖人堀鐵工所（石巻市）の柿沼孝使代表取締役から、石巻地域と水産業・造船業の関わり、石巻地域の魅力や社会人としての心構えについて講演があり、生徒は積極的に質問をするなど、高い関心を持って参加していた。

担当者の説明に熱心に耳を傾ける（セイホク株式会社）

生徒からの質問に答える柿沼孝使代表取締役（株式会社聖人堀鐵工所）

社会人との対話によるキャリア発達支援事業

高校生と若手社会人が仕事のやりがいなどを語り合う

宮城県では、県内の小・中・高校の各年代において、勤労観・職業観の醸成や地元定着の促進などを目的としたキャリア教育プログラムを実施し、地域の未来を担う人材育成に取り組んでいる。

高校生を対象とした取組では、地元の若手社会人と生徒たちが「会社を選んだ理由」「仕事の内容」や「やりがい」などを車座になって対話することにより、自らの職業観を深めて進路選択に生かせる内容となっている。昨年度は県内5つの高校で開催し、延べ409人の生徒が参加した。

参加した生徒からは、「自分はまだ将来何をしたいのか具体的な考えはないが、この授業を通じて詳しく知ることができた」「私たちの生活を陰で支えてくれている職業を知ることができて良かった。将来のことをしっかりと考えていきたい」などの感想が聞かれた。

今年度も実施を予定しているので、対象となった高校の生徒は積極的に参加してもらいたい。

グループでの社会人との対話の様子

授業全体像